

60年ぶりに感動の再会

中種子町学童疎開60周年記念交流

9月27日と28日、戦時中の昭和20年4月～10月に中種子町から旧3町に学童疎開された方など45名が来町されました。

旧鶴田町では、平成15年に中種子町のNPO法人と連携し、旧鶴田町に疎開されていた方々との交流を始めました。中種子町から旧鶴田町を訪問して当時受け入れた家族と数十年ぶりに再会し、感動の交流を持つことができました。また翌年には、旧鶴田町から小学生とその保護者など41人が中種子町

を訪問し、疎開されていた家族のなごにホームステイしながら、同町の星原小学校の子どもたちとも交流を深めました。

今年は、さつま町が誕生し、疎開60周年の節目を迎えたことから、旧鶴田町への疎開者が中心だった中種子町星原校区のほか、地区によっては旧宮之城町及び旧薩摩町にも疎開されており、中種子町内全域に広く募集をかけてこの交流が実現しました。

中種子町長をはじめとする一行は、鶴田総合支所での歓迎式後、それぞれ戦時中通った小学校を訪れ、児童に当時の様子を話したりして交流を深めながら、当時と様変わりした学校を見学しました。その後、中種子町から寄贈された「そてつ」を町内3か所に植樹しました。

夜には、疎開当時の地元受け入れ先や昨年交流を深めた小学生などが参加して歓迎会も行われ、昔話に花が咲いていました。

翌日は、町内観光施設の鶴田ダム・観音滝公園・ガラス工芸館・宮之城歴史資料センター、宗功寺などを見学しました。疎開先を初めて訪れた方もおられ、60年ぶりの再会に感動の交流となりました。



子どもたちとの交流



懐かしい小学校見学



鶴田ダムの見学



「そてつ」の植樹（薩摩総合支所）